

現状と課題

- 2020年大会の成功に向けて、より多くの都民のボランティアへの参加が不可欠
 - ・ 東京都のボランティア行動者率 24.6% (2011年度実績)

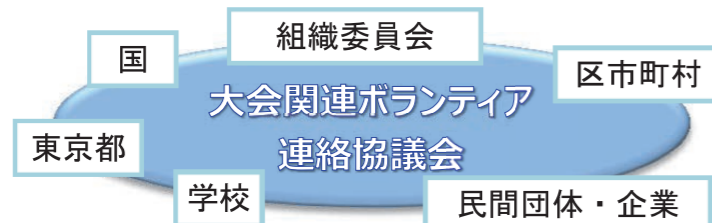
大会を契機に一層醸成が進んだ都民のおもてなし精神がボランティア文化として定着し、ボランティア行動者率40.0%（2024年度）を達成

主な政策展開

2020年大会に向けた、ボランティアの裾野拡大及び着実な育成

◆ 人材の確保に向けた環境の整備

- 関係機関による大会関連ボランティア連絡協議会を設置し、団体相互の連携体制を構築



- 大会関連ボランティアの裾野拡大や都市ボランティアの募集・育成・運用等について、ボランティアの基礎戦略を策定

◆ 気運の醸成や裾野の拡大

- 2020年大会に向けて、ボランティア情報を発信するホームページを開設
- スポーツイベントなどの参加機会の提供や障害のある人も参加できる環境づくりなどにより裾野を拡大

◆ 質の高い都市ボランティアの確保

- 各種研修を通じて、大会ボランティアと共に2020年大会を支える、質の高い都市ボランティアを育成

◆ 各種ボランティアの着実な育成

- 区市町村や民間の語学教育団体等と連携し、外国人おもてなし語学ボランティアを育成
- 都市ボランティアの中核を担う観光ボランティアのスキルアップを支援し、活躍の機会を更に拡充
- 次代を担う若い世代である中高生を対象に、おもてなし親善大使を育成

【政策目標】

- ・ 都市ボランティアの育成 1万人 (2020年)
- ・ 外国人おもてなし語学ボランティアの育成 3万5千人 (2019年度)
- ・ 観光ボランティアの活用 3,000人 (2020年)
- ・ おもてなし親善大使の育成 1,000人 (2020年)

〈2020年大会の成功を支えるボランティアの全体像〉

開催期間中、大会を支える大会関連ボランティア

大会運営を支える

大会ボランティア
 (約8万人を想定(過去大会参考))
 会場案内・誘導、競技運営など、大会の運営をサポート
 ※組織委員会が募集・育成

東京を訪れる人々を支える

都市ボランティア
 (1万人)
 空港・主要な駅・観光スポット等に設けたブースなどで、観光・交通・会場案内等のサービスを提供



※イメージ

都内の各所で、様々な分野のボランティアが活躍

幅広い市民活動への支援を通じた、共助社会の実現

◆ 互いに支え合う共助社会の実現

- 町会・自治会等の地域活動やスポーツ大会でのボランティアなど、あらゆる場面で活動を活性化し、2020年大会を契機に一層の醸成が進んだ都民のおもてなし精神をボランティア文化として定着
- ボランティアなどの社会貢献活動の活性化により、共助社会を実現

◆ 東京ボランティア・市民活動センターとの連携による、社会貢献活動の促進

- ボランティア参加者や活動団体への情報提供等による円滑なマッチング
- NPO・大学・企業のCSR部門との協働・連携を進めるなど、都民の幅広い社会貢献活動を促進

現状と課題

- 東京を訪れる外国人旅行者数は年間約681万人（2013年）
※2003年（約275万人）の約2.5倍
- しかし、旅行地としての東京の明確なイメージは海外に十分に浸透していない
- また、言語が障壁となる東京において、旅行者が一人でも街歩きを楽しめる環境はいまだ十分とは言えない

世界中の旅行者から選ばれ、何度でも訪れたいくなる世界有数の観光都市・東京を実現

2020年及び2024年までに実現すること

【オリンピック・パラリンピック開催時まで】

- ・ 訪都外国人旅行者数 年間1,500万人（2020年）
- ・ 外国人旅行者の無料Wi-Fi利用環境に対する満足度 90%以上（2020年）

【おおむね10年後まで】

- ・ 訪都外国人旅行者数 年間1,800万人（2024年）
- ・ 国際会議の開催件数 世界トップスリーに入る年間330件（2024年）

主な政策展開

戦略的なプロモーション

◆ 「東京ブランド」の確立

- 官民で連携し、海外に向けて旅行地としての東京を強く印象付ける「東京ブランド」を推進

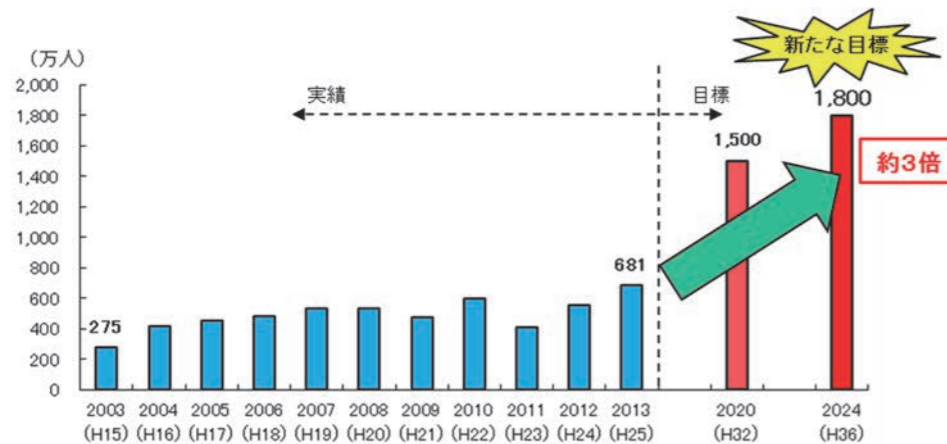
◆ 他地域と連携した日本の魅力の発信

- 他自治体や民間事業者と広域的に連携し、東京と地方の魅力を楽しめる観光モデルルートや共同ファミトリップを実施

＜東京と地方の連携イメージ＞



＜訪都外国人旅行者数の推移と今後の目標＞



MICE誘致の強化

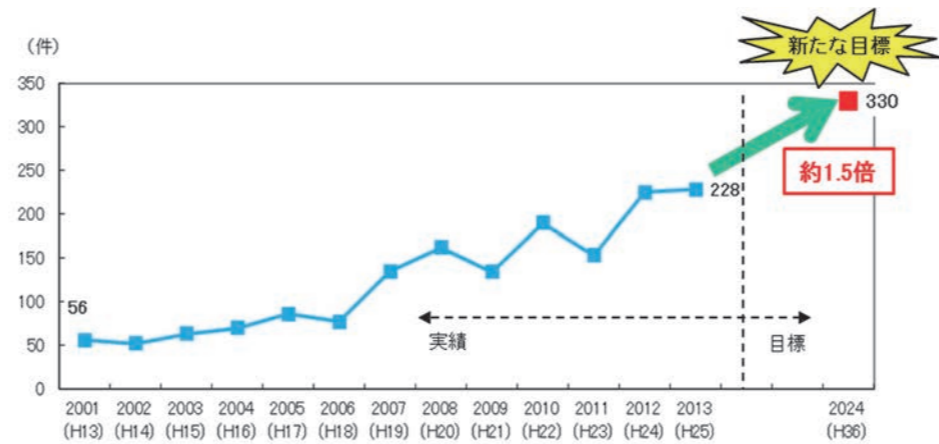
◆ 多様な主体と連携したMICE誘致

- ユニークベニューの活用や都内の主要大学と学術系の国際会議促進など、東京の生かした誘致活動を展開
- 東京ビジネスイベント先進エリアにおいて、MICE関連施設の集積を生かし、受入環境を充実
- 高度なスキルやノウハウを持ったMICE専門人材の育成を推進

＜ユニークベニューの実施例＞
日本科学未来館 シンボルゾーン
「第21回アジア・太平洋地域宇宙機関会議」



＜東京における国際会議の開催件数の推移と今後の目標＞



観光資源の開発・発信

◆ 地域資源を活用した東京の魅力の発信

- 食品・土産品・工芸品など、東京の新たな特産品の開発、特産品の国内外への販売・PRを推進

＜「東京味わいフェスタ2014」＞



- バリアフリー観光の推進により、高齢者や障害者が安心して都内観光を楽しめる環境を整備

- SNSなどを活用し、旅行者の視点で発掘した多摩・島しょ地域の魅力や楽しみ方を広く発信

＜東京の多彩な観光資源＞



(写真提供) 公益財団法人東京観光財団

世界的な観光都市としての受入環境づくり

外国人旅行者の受入環境整備方針

- 2020年、更にもその先を見据え、外国人旅行者の受入環境の整備を都内全域で行うための基本的な方向性を示すため、2014年12月に策定
- 5年間で計画的かつ集中的に実施していく、様々な主体によるハード・ソフト両面の取組内容を記載

都内全域で、区市町村や民間事業者等による外国人旅行者が快適かつ安全・安心に滞在できる環境整備を促進

特に、①外国人旅行者が多く訪れる10エリア（新宿、銀座、浅草等）
②2020年大会会場周辺を重点整備エリアとして定め、エリア内においては徒歩2～3分程度で観光情報を得られる環境を整備

◆ 観光案内機能の充実

- 新宿駅南口バスターミナルに新たな観光情報センターを整備し、外国人旅行者のニーズを踏まえたワンストップサービスを提供
- 観光ボランティアを活用した「街なか観光案内」を10エリアで展開
- 観光案内窓口を拡充し、翻訳アプリ・デジタルサイネージ等の導入により多言語対応等の機能を強化

【政策目標】

- ・ 新たな観光情報センター（新宿駅南口）の整備（2015年度）
- ・ 「街なか観光案内」の実施10エリア（2019年度）
- ・ 観光案内窓口の拡充・機能強化10エリア内に200か所程度（2019年度）

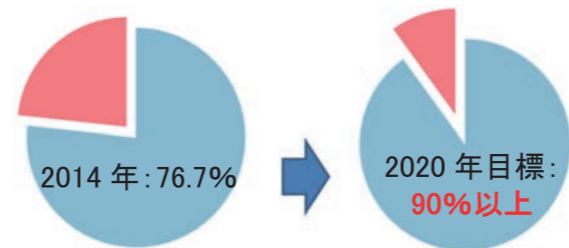
◆ 無料Wi-Fi利用環境の向上

- 重点整備エリアにおいて、歩行空間や観光案内窓口等にアクセスポイントを拡充
- 都内全域で、区市町村や民間事業者（宿泊施設等）による整備を支援
- 都立施設において「TOKYO CITY Wi-Fi（仮称）」（一度の登録でインターネット接続を可能とする仕組み）を導入

【政策目標】

- ・ 観光案内サイン周辺600基程度アンテナを設置（2018年度）
- ・ 歩行空間に整備するデジタルサイネージ100基程度アンテナを設置（2019年度）
- ・ 全ての都立文化施設（2016年度）
- ・ 全ての都立庭園・動物園（2015年度）

＜外国人旅行者の無料Wi-Fi利用環境に対する満足度を向上＞



◆ 旅行中の利便性を向上

- 外国人旅行者向け交通機関・観光施設共通ICカードの開発・普及を促進
- クレジットカード決済環境等の国際標準サービスの導入を支援
- ムスリム等の多様な文化や習慣への対応を促進し、受入対応施設の情報を広く提供

新たなにぎわいの創出

◆ 隅田川周辺における水辺の魅力を生かした東京の顔づくり

- 隅田川を軸として、橋梁から川沿いへのアクセス向上、テラスの連続化、夜間照明の整備などを進め、東京湾・ベイエリアと都心を結ぶ水辺の動線を強化
 - 「にぎわい誘導エリア」における重点的な施策展開により、人々が集い、にぎわいが生まれる魅力的な水辺空間を創出
- ＜「にぎわい誘導エリア」におけるリーディングプロジェクトの展開＞

「浅草エリア」

《浅草と東京スカイツリー®が一体となったにぎわいづくり》

[リーディングプロジェクト]

北十間川プロムナード

河川・道路・公園等の一体的な整備により、二大観光拠点の周遊性を向上



「両国エリア」

《歴史・文化が息づく東京の顔づくり》

[リーディングプロジェクト]

両国リバーセンター

既存の船着場の機能を高度化し、隅田川と周辺観光施設・交通機関等との動線を強化



「築地エリア」

《海・川・街を接続する隅田川の玄関口の整備》

[リーディングプロジェクト]

築地リバーフロントターミナル

海・川・街をつなぐ舟運ターミナル機能の創出



◆ 成熟都市にふさわしい道路空間を創出

- 東京シャンゼリゼプロジェクトを推進し、道路空間を生かした新たなにぎわいを創出

(対象エリア)

- ・ 虎ノ門地区
- ・ 丸の内地区 など



現状と課題

- 東京には、文化的ポテンシャルの高い地域が点在しているが、都市が持つ芸術文化の魅力や強みを十分に生かしきれていない
- 2020年大会の文化プログラムの展開に向けた国や都の取組体制等を更に強化していく必要がある

- ◇ 東京のいたるところで多彩な文化プログラムが展開され、文化の面でも史上最高のオリンピック・パラリンピックを実現
- ◇ 文化プログラムのレガシーが継承され、誰もが身近に芸術文化に触れられる、「世界一の文化都市」へと成長

主な政策展開

身近に芸術文化に親しめる環境の整備

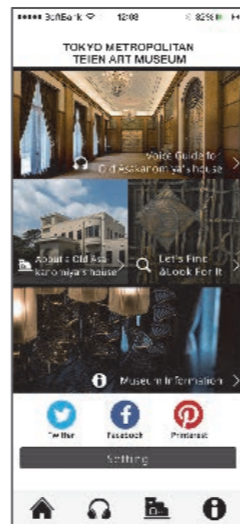
◆ 芸術文化拠点の魅力向上

- 上野地区をはじめ芸術文化資源が集積する地域において、個性を生かした芸術文化拠点の魅力の向上を図るとともに、多摩地域では、都市公園の活用や芸術系大学との更なる連携を進めるなど、地域の魅力や強みを生かしたまちづくりを都内各地で展開

◆ 文化施設のサービス向上と、芸術文化資源の活用

- バリアフリー化や多言語対応、開館時間の延長など、ニーズに即した機能更新によりサービスを向上させ、あらゆる人々に開かれた都立文化施設を実現
- 首都圏の美術館・博物館などで連携し、広域共通パスの発行や開館時間の延長等に取り組み、首都圏全体で国内外からの多くの来館者を惹き付ける、広域的な芸術文化施設のネットワークを構築
- 東京・北京・ソウルの都市歴史博物館連携を更に強化し、各施設の収蔵品を相互に展示し合うなど、海外の都市とのネットワーク構築を芸術・文化の面からも積極的に促進

＜東京都庭園美術館の多言語対応解説アプリ画面＞



【政策目標】

- ・ 上野等で芸術文化拠点の魅力向上（2020年）
- ・ 全都立文化施設で多言語対応を完了（2020年）
- ・ 全都立文化施設で開館時間を延長（2020年）
- ・ 文化施設の広域共通パスを導入（2020年）

あらゆる人々の創造的な芸術文化活動を支援

◆ 東京を舞台に様々な芸術文化活動が展開

- 地域に根ざした伝統的な郷土芸能から先鋭的な取組まで、次代を担う創造性あふれた活動を発掘・支援するとともに、世界に通用する若手人材を育成
- 国籍や年齢にかかわらず、あらゆる人々が創造的な芸術文化活動を展開するとともに、多くの人々が気軽に参加できる芸術文化イベントが街中で多数開催されるなど、文化の魅力あふれる東京を実現
- 世界中のアーティストを集めた展覧会や、障害のある子供たちと芸術家が共に行う創作活動など、障害者の芸術文化活動に資する取組を強化

＜神楽坂まち舞台・大江戸めぐりの様子＞



史上最高の文化プログラムの展開

◆ 文化プログラムの展開に先駆けた、芸術文化の気運醸成

- 今後10年を見据えた東京の文化政策における道しるべとなる「文化ビジョン（仮称）」を策定し、国内外に広く発信するとともに、先駆的な文化政策を展開
- 文化プログラムに先行して、多彩な人材・文化資源を活用した大規模なリーディングプロジェクトを展開し、文化の面でも2020年大会を成功に導くため、積極的に気運を醸成

◆ 文化プログラムの推進

- 公共空間や民間施設のほか、人が集まる交差点や地下街等これまでに例のない場所での事業展開など、都市自体を劇場とした先進的で他に類を見ない文化プログラムを実現
- アーツカウンシル東京について、大会後も東京の芸術文化を支える専門機関として機能を充実